



発行 研修部会

# 「志方ガイド」



かこがわ人の会

平成 27 年 10 月 12 日

## 目 次

|            |       |
|------------|-------|
| 大藤山 長楽寺    | P 1   |
| 蛇が池        | P 2   |
| 獅子吼山 妙正寺   | P 3   |
| 宝積山 観音寺    | P 3   |
| 志方八幡神社     | P 4   |
| 中道山 安楽寺    | P 5   |
| 志方の城山      | P 7   |
| 満祐山慈徳院 円福寺 | P 8   |
| 月輪山 円照寺    | P 8   |
| MEMO       | P 1 1 |

### 大藤山 長楽寺

治承2年(1178年)、八十代高倉天皇の中宮が難産のため、全国の神社仏閣に安産祈願を行いました但其験がなく、丹波老の坂の地藏尊に祈願したところ、難産だった中宮が無事に出産されました。

このことを喜んだ高倉天皇は勅命で同じ地藏尊を平清盛に命じ66体作らせ、日本66州、一国に一体を安置。

なかでも大藤山長楽寺の地藏菩薩は、歴代の勅願所として仰がれました。

その後天正6年(1578年)羽柴秀吉の兵火によって長楽寺の伽藍は消失しましたが、当時の住職が本尊を抱いて姿を隠したと言われています。

寛文(1661-72年)のはじめ、専空念教法師が常行念仏堂を建立するまで助永村で上の屋敷、下の屋敷と転々とされました。

念教法師はその後宝永三年(1706年)に至って漸く現在の長楽寺を再興、爾来浄土宗西山禅林寺派に属して今日に至りました。

長楽寺の本尊木造地藏菩薩半像は国の重要文化財に指定されています。

地藏菩薩はお釈迦様の没後から弥勒菩薩の成道までの無仏時代にあって、衆生済度のためこの世に出て来られた菩薩です。



長楽寺のお地藏様はお姿がお美しく、また、珍しいことでも世に知られています。「仏説延命地藏菩薩経」には地藏菩薩がはじめて大地から出現せられた時のお姿が次のように書かれています。

「その時大地、六種に震動して延命菩薩地より出現し給う。右膝を曲立して、臂を立て、掌に耳を承け、左の膝を申べ下し、手に錫杖を持ち給う。」長楽寺のお地藏様はこの通りのお姿です。

長楽寺は2011年9月4日の台風12号により甚大な被害を受け、本堂・阿弥陀堂等は土砂により全壊・流失してしまいました。

### 蛇が池

天正6年(1578年)、羽柴秀吉が神吉城攻めの際、一本の矢が秀吉の軍勢に打ち込まれた。矢にあった銘から長楽寺から射られたものだと知った秀吉は、寺と大藤山を火攻めにする。攻められた寺の住職は本尊の延命子安地藏尊と釣鐘を背負って逃げました。

しかし、釣鐘は重く、大藤山の裏の蛇が池に沈めました。

この池はいかなる干ばつでも水が絶えることはなく、水面にはさびが浮いています。

そのことから「長楽寺の古い釣鐘が沈んでいて、池の主である大蛇がしっかりと鐘を抱いている」といわれています。

す。

この地域では昔から干ばつの時はこの池に「鐘堀り」に出かけると、大蛇が怒って雨を降らせるという言い伝えがあります。

池は昔1haほどの広さだったということですが、今はその半分位の大きさになっています。

### 獅子吼山 妙正寺

浄土真宗 本願寺は、本願寺八代目蓮如上人の教化により蓮光坊として開基されました。

その後、蓮光寺、妙正寺と改号されて現在に至ります。

豊臣秀吉が志方城を攻めた時に陣を置いたこと、明治の初期に現在の志方西小学校の前身となる寺子屋を開設したことなどが寺史に記されています。

本堂を中心に山門・経堂・鐘楼・太鼓楼などを配置した寺院様式です。

### 宝積山 観音寺

曹洞宗の寺院で本尊は十一面観世音菩薩です。

観音寺の付近一帯は志方城址。城は観音寺の境内を本丸として、囲む内堀の周囲に二の丸(志方小学校あたり)、西ノ丸(旧志方町役場あたり)とかなりの規模だったようです。

城主は櫛橋左京亮則伊といい、代々播磨の守護であった赤松氏の家臣でした。文明13年(1481年)、志方西飯坂天神山に築城したが、飲料水が乏しかったので、明応元年(1492年)、この地に移した。

伊家、伊定、政伊と4代続いたが、天正6年(1578年)秀吉の播磨攻めにあい、落城。

志方城は軍師官兵衛の妻、光姫が生まれた櫛橋家の居城です。

その後、天正11年(1587年)薩摩より宝岩宗珍和尚が来られ城の本丸跡の一隅に櫛橋家の墓碑を守るため、小さな禅寺を建て、宝積山地福寺と称し、念持仏の観世音菩薩を本尊として安置したのが始まりです。

延宝2年(1674年)、現在の寺が建立され、寺名を観音寺と改称今も櫛橋家を鎮魂されている。

本堂奥には、前住職が昭和56年(1981年)に造られた御位牌堂があり、正面奥には光姫の御位牌も置かれています。

又、本堂に掲げられている山号額、俗に袈裟綴りの額は寺宝ともいえます。

寺の裏の墓地には櫛橋家累代の墓と書かれた五輪塔が建っています。

### 志方八幡神社

志方町中央の宮山山頂に鎮座し、表に志方城址裏に中道

子山城山城址、遠くには播磨灘が見渡せる。

播磨三社八幡の一つで、古来、厄除け、安産の神、近年は交通安全の神として崇敬されている。

天永2年(1111年)、志方庄宮谷に創祀され、明応元年(1492年)黒田官兵衛の妻光姫の里である志方城主櫛橋氏が現社地に奉還し、京都の石清水八幡宮より、八幡神を迎え、志方庄30ヶ村の総鎮守としたといわれる。

祭神は応仁天皇、神功皇后、玉依比売命です。

江戸時代以降、明治初年まで、毎年秋の祭礼には、奉納行事として、能楽が催され、民謡にも「あの能、志方の能、宮に能～」と謡われるほど盛んだった。

歴史古く貴重な建造物能楽堂は昭和40年の台風により倒壊したが、平成4年の国恩祭の時に再建され毎年10月例祭には地元の少女による「和光楽」(俗称：胡蝶の舞)が奉納される。

明治12年(1879年)に西宮ゑびす神社より御分霊された境内社の一つ「ゑびす神社」は1月9日、10日の初ゑびすで賑わう。

本殿裏に神社には珍しい釣鐘があり、「平和の鐘」と刻まれている。

志方八幡宮の社務所主屋、社務所門、社務所蔵は平成14年8月、国の登録文化財に指定されています。社務所はもと志方八幡宮別当神宮寺であった真言宗明星山能満寺の本堂でした。



## 中道山 安楽寺

弘法大師の弟子・真詔上人が弘仁2年(811年)に開山し、中道子山(通称志方の城山)に真言宗、無量寿院を創建したのが始まりです。

その後、本光山中道寺と改称し、長い間山頂にありました。赤松氏が城を築くに際し、康暦2年(1380年)山麓の現在地に移されました。

赤松氏の没落後、志方城主・櫛橋氏によって浄土宗寺院として永禄2年(1559年)に再建されました。

本尊は阿弥陀如来。白い壁が長く続いているのが印象的で、春には見事な桜が楽しめます。

境内の鐘つき堂の横に「十王堂」があり、地獄と極楽を対比して、壁面に描かれた地獄極楽絵図と極彩色に彩られた十王像が収められています。

十王堂のすぐそばに「関東震災横死供養之碑」がある。

高さ約2メートル、裏面に建立した経緯が刻まれています。

大正12年、マグニチュード7.9の大震災が関東一帯を襲いました。

死者行方不明者14万人、その内70%が焼死。当時、志方に“念仏おどり”のグループがありました。

そのグループに、東京在住で志方出身者からの依頼があって、その年の冬、約20名の若い女性が被害の著しい東京の下町・浅草を訪れています。

御詠歌にあわせて念仏踊りを舞う。その姿に数百万の市

民が感泣したといえます。

これは、今でいうボランティアの先駆けではなかったでしょうか

帰郷してから、死者を弔う供養の碑を安楽寺に建立したのです。

## 志方の城山

通称志方の城山と呼ばれている中道子山、標高は272メートル。

本丸跡に一等三角点があります。

志方町の東端にある。山頂には、弘法大師の弟子、真詔上人が弘仁2年(811年)に開山した無量寿院がありました。

後に本光山中道寺と改称している。室町時代、赤松氏の配下孝橋繁廣の時に、城を築くにあたって、寺院は山麓に移る。現在の安楽寺です。

城は中道子山城と呼ばれ170年続きました。

享禄3年(1530年)頃は別所氏に味方する城で、赤松氏の重要な役職を担った櫛橋氏と高橋氏が管理していたようです。

城の規模は大きかった。

天正8年(1580年)に、秀吉の軍勢が播磨へ進攻の時に、攻め滅ぼされ落城し、廃城したと考えられています。

登山道を上って頂上に近づくと、つづみ折りの山道に

「一の丸」、「二の丸」、「三の丸」跡が残っています。

攻め上って来る敵を段階的に迎え討つ防御施設で、中世の山城によく見られる。敵の侵入を防ぐ目的で、山腹に竹の皮を敷き詰めたが、火を放たれ、兵糧米をまいて鎮火に努めたものの落城に至ったという伝説がある。

本丸の広場に石碑、入口には昭和 35 年に建立した地元出身の三村荒磯の句碑「蟬しぐれ古城をあらく子等のぼる」がある。

山上から北側の七つ池、南側の播磨灘、東に権現ダム、西に高御位山が見渡せる。

休日になると、登山者、ハイキング、城跡の見学者でにぎわう。

最近はこの丸付近からパラグライダーの姿が増えた。

うまくいけば、竹田城に劣らない雲海が見えることもある。

#### 満祐山慈徳院 円福寺 (マンユザンジツクインブツジ)

浄土宗西山禅林寺派の寺で本尊は阿弥陀如来です。

応永 4 年 (1397 年) 赤松満祐の寄進にて満祐山慈徳院円福寺として創設され満祐を開基として第一世円空順戒上人を開山としています。

天台宗から鎮西派の念仏宗を経て浄土宗となりました。

明治時代に火事で焼失し再建したが老朽化が進み 2015 年 3 月 27 日に新築の落慶法要が執り行われました。

#### 月輪山円照寺 (ゲチンザンエンショウジ)

当寺は正長年間(1428年)に既に真言宗正念寺として村南東にあったが戦禍をこうむって焼失した。

その後当地の住人原兵庫頭重元入道順正が寺を再興、庵を建てました。

その後、順正の一族門弟の玄正法師が当寺の中興開山となり正徳元年(1711年)改号を願い出て、本願寺 14 代顕如上人よりお許しあり後円照寺と称した。

現在の本堂は平成 5 (1993) 年に移築建立されたものである。住職は 13 代目だそうです。

浄土真宗本願寺派(西本願寺)の寺院で本尊は阿弥陀如来です。

梵鐘(市指定文化財)は明応 7 年(1498 年)鑄造、徳山市の上野八幡宮のものであったが天正 15 年(1587 年)豊臣秀吉が島津征伐の時に陣鐘として用い、帰陣の途中宮谷付近に棄てていったものを志方八幡宮に収めたが、鳴りが悪いため円照寺がもらって来たものという。

尚、古人の言い伝えによると、一説に、八幡宮にあった本鐘と円照寺の鐘を交換したものだともいう。又「中国大返し」の際に残っていたとも伝わっています。

同寺は別名「花の寺」とも呼ばれており四季にわたって境内に花が咲き乱れており、住職ご夫妻企画の音楽会や迎春行事が催され特に若手ミュージシャンに発表の場を提供されている。